

平成30年度 月刊 セツ 校長通信 8号

(生徒・保護者版)

H28.11.27 (11月号)



俊英NOW

● 3年5組宮川真咲くん 人命救助で表彰



先月4日、本校3年5組宮川真咲君が長野市若穂の自宅に向かっていたところ、台風24号で増水した保科川に転落して動けなくなっているおじいさんを発見、たまたま通りかかった中学の後輩の女子高生2名(文化学園高校)の協力を得て、119番通報し、ロープに結んだ脚立を降ろして救助を試みました。やがておじいさんは、駆け付けた消防隊員に無事救助されました。その適切な判断と行動に敬意を表します。

11月9日、本校体育館で全校生が見守るなか、宮川君は、長野市消防局を代表して訪れた松代消防署永井署長から感謝状を授与されました。当日は、多くのテレビ局や新聞社が取材に訪れ、ニュースや新聞に取り上げられました。これは、長野俊英高校にとっても誠にうれしい出来事であり、その日のニュースで、落ち着いたインタビューに答える宮川君の姿は、とても誇らしいものでした。

● いじめ問題について注意喚起をうながす全校集会



2009年、大田区多摩川河川敷で遊んでいた高校生グループがふざけて仲間を川に突き落とし、不幸なことに2名の水死者が出る事件がありました。へらへらしたふざけた雰囲気が取返しのつかない結果を生むことがあるのです。……誰もが持っているはずの「良心」を常に意識し、相手を思いやる心を育てて学校生活を送って欲しいと、校長、教頭から注意を喚起しました。

『ノストラダムスの大予言』

16世紀のフランスにノストラダムスという人物がいた。彼は、フランス国王アンリ2世に仕えた医者兼占星術師だった。このノストラダムスが1555年、予言詩集を出版した。何かを予言しているらしいのだが、内容が謎めいていてさっぱりわからない。

その4年後の1559年7月1日、王族の婚約祝い事の最中に痛ましい事件が起った。式典のイベントで騎馬試合^{トーナメント}が行われ、国王アンリ2世自ら槍を取って試合に参加した。相手は若い騎士だったが、槍が激しく打ち合わされたとき、騎士の槍の穂先が折れ、不運にもその破片が国王の右目をつらぬいたまま陥没してしまったのである。王は苦しみながら数日後に亡くなった。むごい事件だった。ところがその後、ノストラダムスの予言詩集を読んだ人々は戦慄^{せんりつ}することになる。そこに次のような詩が載っていたからである。

「老いたる獅子に、若きは打ち勝たん。いくさの庭の中、一騎打ちのはてに。黄金の檻^{おり}の中にて、双眼をえぐり抜かん、二つの破片の一つは。しかして死せん、酷^{むご}き死。」

(渡辺一夫『フランス・ルネサンスの人々』(岩波文庫) 所収の訳による。)

(老いたライオンが一騎打ちで若いライオンに打ち倒される。黄金の檻の中で、二つの破片のうちの一つが両目をえぐり抜いてしまう。そしてむごく死ぬ。) これはまるで、アンリ2世の非業^{ひごう}の死を予言しているように思われるものだった。以上は史実である。しかし、よく考えてみると、事件が起こった後で予言と分かるのでは予言にはならない。後付けで解釈すると「予言されていたように見える」ということに過ぎないのかもしれない。

さて、このノストラダムスが、1970年代、日本で大ブームを巻き起こした。五島勉^{ごとうべん}という人が『ノストラダムスの大予言』(祥伝社、1973年初版)という本を出版して大ベストセラーになったのがきっかけだった。五島勉氏は、ノストラダムスの予言詩集からいくつかの詩を紹介し、そこにフランス革命やナポレオンの没落、ヒトラーの台頭、原爆の投下などが予言されていたことを論証した。そしてとどめに、次の詩を紹介した。

「1999年7の月、空から恐怖の大王が降ってくる。アングルモアの大王を復活させるために。その前後の期間、マルスは幸福の名のもとに支配に乗り出すだろう。」

(五島勉『ノストラダムスの大予言』(祥伝社、1973年) 所収の訳による。)

何を言っているのかよく分からないが、「1999年7の月、空から恐怖の大王が降ってくる。」という一節は衝撃的だった。年月がピンポイントで指定されているうえに、「恐怖の大王」が降ってくるというのは、ただ事ではない。核戦争の勃発か、巨大噴火か、小天体の衝突か、さまざまな説が飛び交い、人々は大きな不安にかられることになった。しかし1999年7月、結局何も起らなかった。ノストラダムスの名前は、最近あまり耳にしなくなった。ましてや五島勉の名前はまったく耳にしない。

先行きが不透明な時代には、『ノストラダムスの大予言』のように人々の不安をあおる無責任な言葉が広がり易い。特にネット上でさまざまな情報が渦巻く現在、何が本当で何がうそなのか、何が必要で何が不要なのか、それをきちんと自分で判断できる力が極めて重要になっている。生徒諸君には、さまざまな「ノストラダムス的情報」(＝フェイクニュース)に惑わされることなく、情報を冷静に判断する力を育てて欲しい。

